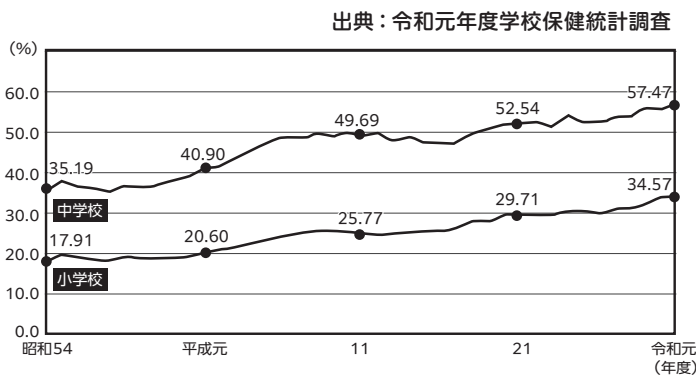


問 児童生徒の眼軸近視への対応策は

答 近視防止に具体的に取り組む



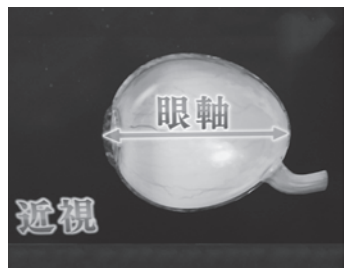
グラフ【裸眼視力 1.0 未満の者の割合推移】

視力低下者が時休業後にも、ナ禍による臨

問 コロナ禍で、IT機器を使用した30cm以内の作業(学習・ゲーム等)による「眼軸近視」が増えてきた。視力1.0未満の割合は、小学生で全国平均34%、中学生になると57%と発表されている。児童生徒にとっては100年の人生を生き抜いていく非常に大切な目である。視力を守ることに對して、今後の学校での取組を伺う。



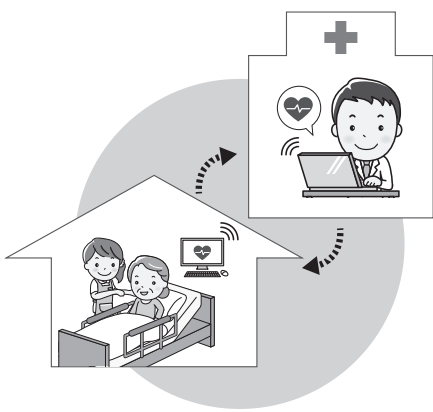
光風会 江田 五六 議員



眼軸の異常による視力低下

問 システムで高齢者の健康管理を

答 実証研究結果等を注視していく



将来、在宅で健康管理ができる時代になる

問 高齢者と東海病院が、IT機器を使ってつながり、健康状態のチェックができる体制づくりが必要であると以前から提案してきた。アプリやスマートウォッチを使って超早期ケアが可能となり、重症化予防ができる段階にきている。コロナ禍を契機に、国と民間企業が体温・血圧を測定すると同時にデータが病院に行くシステムを開発した。これらのシステムは、高齢者の健康維持に必要である。

問 IT機器を利用した高齢者の健康状態がチェックできる体制作りは、医療機器関連企業が開発したスマホアプリで症状や血圧、血中酸素濃度を転送し、健康管理を行うシステムがある。当該システムは、実証研究段階にあり、国において、その有効性等について検証が進められている。今後、村としては実証研究結果等を注視していく。